

2026 年 7 月 31 日

韓国・生産は世界的な AI・半導体需要が押し上げ要因に(Asia Weekly)

～電子部品や電気機械のみならず、原油の供給懸念後退で幅広い分野で生産が拡大～

経済調査部 主席エコノミスト 西濱 徹

(Tel : 050-5474-7495)

(経済指標の振り返り)

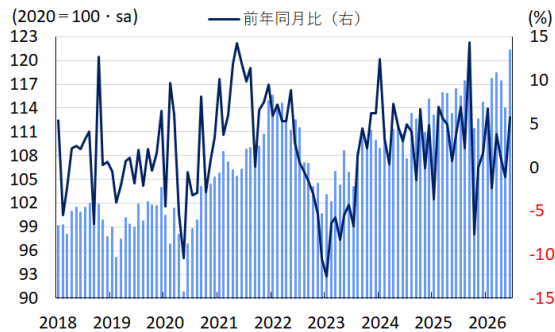
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
7/27(月)	(シンガポール)6 月鉱工業生産(前年比)	+7.2%	+11.0%	+17.8%
7/28(火)	(インド)6 月鉱工業生産(前年比)	+7.3%	--	+5.0%
7/29(水)	(オーストラリア)4-6 月消費者物価(前年比)	+4.0%	+4.1%	+4.1%
7/30(木)	(フィリピン)6 月輸出(前年比)	+24.1%	--	+8.6%
	6 月輸入(前年比)	+19.6%	--	+28.2%
7/31(金)	(韓国)6 月鉱工業生産(前年比)	+5.8%	+2.5%	▲1.1%
	(中国)7 月製造業 PMI	49.0	50.2	50.3
	7 月非製造業 PMI	49.2	--	50.0

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

[韓国]～世界的なAI・半導体関連需要の旺盛さに加え、原油などの供給懸念後退も生産活動を押し上げ～

31 日に発表された 6 月の鉱工業生産は前年同月比+5.8%となり、前月(同▲1.1%)から 2 ヶ月ぶりに前年を上回った。前月比も+6.4%と前月(同▲2.9%)から 3 ヶ月ぶりの拡大に転じたほか、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど、持ち直しの動きが進んでいる。過去 2 ヶ月にわたって調整の動きが続いていた鉱業、製造業はいずれも生産拡大に転じた。製造業の内訳をみると、世界的な AI(人工知能)・半導体関連需要の旺盛さを反映し、半導体をはじめとする電子部品関連や電気機械関連の生産が拡大に転じた。また、自動車をはじめとする輸送用機械関連など、輸出財を中心に生産拡大の動きが確認されている。こうした輸出財の増産に加え、イラン情勢の悪化をきっかけとする原油などの供給懸念が後退したこともあり、石油化学関連の生産も拡大に転じた。さらに、金属関連や縫製品関連など、幅広い分野で生産が拡大する動きがみられた。

図 1 KR 鉱工業生産の推移

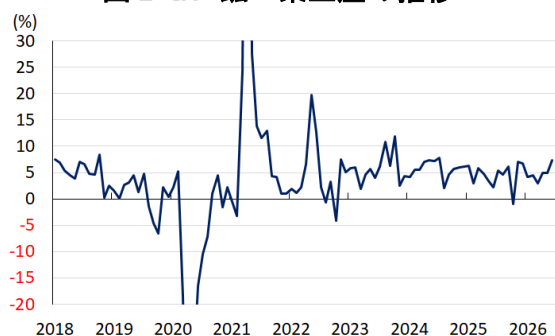


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[インド]～6月の生産は消費財や中間財で堅調な動きが続く一方、資本財では拡大の動きに一服感～

28日に発表された6月の鉱工業生産は前年同月比+7.3%となり、前月（同+5.0%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヵ月ぶりの拡大に転じたほか、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど、持ち直しの動きが続いている。分野別では、鉱業部門で生産拡大の動きが続いているうえ、製造業も拡大に転じた。また、経済活動の動向と連動する傾向がある公益関連の生産も増加に転じるなど、全体として底堅い動きをみせている。製造業の内訳をみると、耐久財、非耐久財を問わず消費財の生産が旺盛な動きをみせるとともに、中間財の生産も拡大している。一方、資本財の生産は拡大の動きに一服感が出ており、設備投資の動きに変化の兆しが見られる。

図 2 IN 鉱工業生産の推移



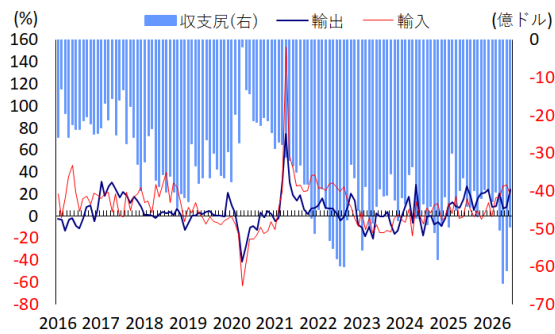
(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[フィリピン]～世界的なAI・半導体関連需要の旺盛さを反映し、6月の輸出額は過去最高を更新～

30日に発表された6月の輸出額は前年同月比+24.1%となり、前月（同+8.6%）から伸びが加速した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比も2ヵ月連続で拡大しており、単月ベースの輸出額は過去最高を更新するなど、持ち直しの動きを強めている。財別では、世界的なAI（人工知能）・半導体関連需要の旺盛さを追い風に、主力輸出品である半導体をはじめとする電子部品関連の輸出が押し上げられた。また、商品市況の高止まりを反映し、鉱物資源関連の輸出も活発な動きをみせている。国・地域別では、最大の輸出先である中国向けが拡大したほか、ASEAN（東南アジア諸国連合）周辺国向け、米国向け、EU向け、日本向けなども総じて拡大している。一方、輸入額は前年同月比+19.6%となり、前月（同+28.2%）から伸びが鈍化した。前月比も2ヵ月連

続で減少したと試算されるなど、持ち直しの動きに一服感が出ており、旺盛な動きをみせる輸出とは対照的な状況にある。財別では、電子部品関連の輸入拡大の動きに一服感が出ている。また、原油をはじめとする商品市況の上昇一服を反映し、鉱物資源関連の輸入額に下押し圧力がかったほか、穀物など食料品の輸入も鈍化している。その結果、貿易収支は▲49.39 億ドルとなり、前月（▲61.03 億ドル）から赤字幅が縮小した。

図 3 PH 貿易動向の推移

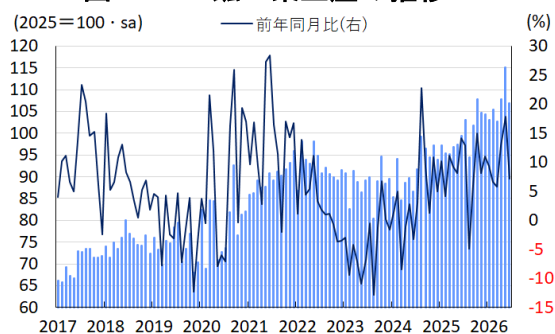


(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

[シンガポール]～輸出財関連を中心に生産拡大の動きに一服感、生産全体に下押し圧力～

27 日に発表された 6 月の鉱工業生産は前年同月比+7.2%となり、前月（同+17.8%）から伸びが鈍化した。前月比は▲7.25%と前月（同+6.90%）から 3 ヶ月ぶりの減少に転じており、持ち直しの勢いには一服感がみられる。同国では、バイオ医薬品関連の生産が月ごとに大きく変動し、鉱工業生産全体を左右する傾向がある。こうしたなか、当月の同部門は前月比+64.56%と前月（同▲9.02%）から 3 ヶ月ぶりの増加に転じ、持ち直しの動きが確認された。一方、バイオ医薬品を除いたベースでは前月比▲11.20%と前月（同+11.70%）から 3 ヶ月ぶりの減少に転じており、基調の弱さがうかがえる。分野別では、金属関連のほか、化学製品関連や紙製品関連の生産は拡大したものの、主力の輸出財である半導体など電子部品関連に加え、コンピュータ関連や電気機械製品関連で生産拡大の勢いが鈍化したことが、生産全体の下押し要因となった。

図 4 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEIC より第一ライフ資産運用経済研究所作成

以 上